評価方法	定期テスト・課題・ノート・授業観察	定期テスト・課題・ノート・授業観察	授業に取り組む姿勢や意欲(グループ討議・発表・報告書など取組も含む)
------	-------------------	-------------------	------------------------------------

単元別 評価規準

第1章 地球と人間

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	地球の構造や循環のサイクルを模式的な図によって 表すことができる 。 資源量を直感的にわかりやすい容積に換算して 表すことができる 。 いろいろなデータやグラフから資源の偏在性と依存度などを 把握することができる 。	現代における炭素や水の循環システムが地球環境にどのような影響を与えているか 説明することができる 。 資源活用のあり方と資源保護の必要性を 説明することができる 。 世界の資源と日本の資源利用にかかわる 問題点を提起することができる 。	今までに習得した知識や図表などの情報を 活用しながら学習しようとしている 。 資源をめぐる諸問題や世界の国々と人々の生活と資源とのかかわりについて、ほかの科目で習得した知識を 活用しながら探求しようとしている 。
	習得する (わかる)	地球の成り立ちと地球の構造および物質の循環のしくみを 理解している 。 地球上のさまざまな資源について、それぞれの特徴と問題点を 理解している 。 世界人口の増加と資源消費の拡大にともなう諸問題を 理解している 。	地球上を循環する物質の役割を 理解し、考察できる 。 地球上のさまざまな資源が社会や生活にどのようにかかわっているかを 理解し、考察できる 。 人間の経済活動や生産活動が世界の資源消費に与える影響について 理解し、考察できる 。	地球の構造や物質の循環のしくみを 理解しようとしている 。 資源に関する知識を確実なものにするために地球上のさまざまな資源がもつ社会的な価値について、 調べ学習を通して理解しようとしている 。

第2章 社会と環境

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	環境への影響評価や環境保全の手法、担い手の役割についての 知識を身に付けている 。	公害や環境問題が発生した背景と環境問題が地域から地球規模へと拡大してきた経緯や、国際社会の取り組みの重要性について 思考・判断することができる 。	環境に関する法律相互の関係や環境アセスメントの手順は理解が難しいため、フローチャートなどを 活用するなどして学習しようとしている 。
	習得する (わかる)	過去に日本で発生した公害問題とその対策および地球規模の環境問題とそれに対処するための国際的な取り組みについて 理解している 。 環境保全を目的とした法律や制度の主旨を 理解している 。	日本の環境政策や法律、基本計画をもとに、国や自治体、事業者、市民、技術者に求められていることと果たすべき役割について 理解し、説明できる 。	地球環境問題に向けて今日までに制定された条約などを理解するため、環境問題の歴史を時系列的に 整理しながら学習に取り組もうとしている 。

第3章 地球温暖化とエネルギー

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	地球温暖化の要因と地球温暖化の防止策および適応策について理解し、将来の気温上昇の予測と影響を グラフや図表から読み取ることができる 。	地球温暖化のシナリオと温暖化の予測との関係を考察し、地球温暖化がもたらす社会的・生物学的影響とその対策について、 判断することができる 。	地球温暖化による危機を身近なものとして意識し、いろいろな情報を取捨選択して知識を補いながら地球温暖化に関する 学習を進めようとしている 。
	習得する (わかる)	エネルギーの供給と消費の関係やエネルギー資源の利用形態および高効率の	おもな国の発電構成から各国のエネルギー事情を推察するとともに、エネルギー	いろいろな発電方法やエネルギーの転換・利用技術に興味・関心をも

		な利用技術に関する 知識を身に付けている 。	ギー利用技術の種類ごとに長所と短所を 理解している 。	ち、他の科目で学習した内容と関連させて 理解を深めようとしている 。
--	--	-------------------------------	------------------------------------	---

第4章 廃棄物とリサイクル

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	製品のライフサイクルと3Rに関する 知識を身に付けている 。 廃棄物の分類および一般廃棄物と産業廃棄物の排出量と処理方法に関する 知識を身に付けている 。	人間の経済活動にともなうごみ問題について考察し、ごみ処理の必要性と廃棄物処理にかかわる問題点や課題をまとめ、 発表することができる 。	人間の活動により発生するごみ問題に関心をもち、廃棄物をめぐる諸問題を解決するために思考を 整理しながら学習を進めようとしている 。
	習得する (わかる)	廃棄物の分別・収集から処理・処分までの一連の流れと具体的な方法を 理解している 。 廃棄物の不法投棄や広域移動などの実態も 把握している 。	廃棄物の処理に求められる技術や環境対策を理解し、廃棄物の抑制と3Rの取り組みから望ましいごみの処分方法について 理解し、説明できる 。	廃棄物の処理方法と処分技術および制度理解は内容が多岐にわたるため、効果的に知識の習得ができるように 学習方法を試行錯誤している 。

第5章 地球環境の保全

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	排出ガスの処理技術や排出ガスの規制に関する知識と図示できる 技能を身に付けている 。 汚水や汚泥の処理方法・処理技術に関する基礎的な 知識を身に付けている 。 土壌汚染や地下水の汚染を防ぐための 知識を身に付けている 。 騒音を算出するために 数学的な計算を行うことができる 。	排出ガス中の汚染物質を適切に除去するためにどのような技術の組み合わせが必要か 判断することができる 。 水質汚染が社会や生活、生物の生息環境に与える影響を 認識することができる 。 汚染を防止するための対策を 判断することができる 。 悪臭など人間が感覚的に感じる量と騒音など物理的な測定値で表すことができる量を 比較することができる 。	大気汚染監視システム等から情報を入手しようとしている。 水質に関する環境基準は複雑で難解な部分が多く、排水の処理技術も多岐にわたっているため、 学習形態を工夫して知識を身に付けようとしている 。 今日までに発生した土壌汚染問題を調べ、それをもとに土壌汚染について 学習しようとしている 。
	習得する (わかる)	大気汚染物質の種類と特徴および環境基準の概要を 理解している 。 水質汚染の原因と影響および水の汚れを示す指標について 理解している 。 土壌汚染物質や地下水を汚染する物質の種類を 理解している 。 感覚公害の種類と特徴およびそれぞれに必要な対策について 理解している 。	大気汚染物質の発生原因を 理解し、考察できる 。 環境基準達成のために汚染物質を処理する技術の適用について 考察できる 。 土壌や地下水を汚染する物質の発生源と流出経路について 考察できる 。 悪臭など人間が感覚的に感じる量と騒音など物理的な測定値の 特徴を説明できる 。	身に付けた環境基準の知識と得た情報を比較しながら 学習結果を検証しようとしている 。 音に関する特性や音の数値化を理解するために対数やデシベルなどの 数学的・工学的な知識を習得し、学習に取り組もうとしている 。

第6章 産業と環境

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	環境ラベルとグリーン購入法についての 基本的な知識を身に付けている 。 化学物質による環境リスク低減のための安全データシートから必要な 情報を読み	事業者が取り組んでいる環境管理の手法や法制度の内容を適切に 説明することができる 。 環境リスクを低減するためにはどのような	事業者の環境問題への取り組みに関心をもち 学習しようとしている 。 身近なところであったヒヤリハット事例を洗い出し、それを検証することによ

	<p>取ることができる。</p> <p>製品の省エネルギー性能を表示するためのラベルの見方を身に付けている。</p> <p>年次データのグラフから導入量の変化を読み取ることができる。</p>	<p>うな安全衛生管理と化学物質の管理が必要であるか判断することができる。</p> <p>製品の省エネルギーを進めるための制度について説明することができる。</p> <p>太陽光発電と風力発電の導入量の推移グラフから、将来の導入量について予測・検討することができる。</p> <p>事業活動において廃棄物の低減と3Rの推進は、どのような形で事業者の経営や循環型社会の構築に役立っていくのか判断することができる。</p>	<p>り環境リスクを少なくする方法を探索しようとしている。</p> <p>社会においてエネルギーを節約することは、産業界や家庭にとってどのようなメリットがあるかそれぞれの視点に立って学習しようとしている。</p> <p>脱フロン化や低VOC化、自動車の排出ガス規制の強化などに関心を示し、個々の対策と環境保全対策を関連づけながら学習しようとしている。</p>
習得する (わかる)	<p>環境マネジメントシステムやライフサイクルアセスメントの目的を理解している。</p> <p>環境リスクと安全管理に関する知識を習得している。</p> <p>産業界の省エネルギーやエネルギーの有効利用状況を把握している。</p> <p>日本の太陽光発電と風力発電の導入事例を理解している。</p> <p>リサイクルに関する法律が対象とする品目と、それを処理する各主体の役割および産業界で取り組んでいる環境対策の手法を理解している。</p> <p>フロン類や揮発性有機化合物の使用にともなう問題点と、自動車の排出ガス規制および事業所における水の再生利用技術について理解している。</p>	<p>企業で環境への対応が求められるようになった背景を考察できる。</p> <p>環境リスクが発生する要因を考察できる。</p> <p>産業界の省エネルギーとエネルギー有効利用の必要性を考察できる。</p> <p>業務用冷凍空調機器からフロンの排出量が増加している要因および揮発性有機化合物の排出削減に向けた方策について考察できる。</p>	<p>企業が実際に展開している環境対応を調べることでより企業の社会的責任を理解しようとしている。</p> <p>再生可能エネルギーの導入効果を理解するため、次世代エネルギーパークの取り組みについて調べ、理解しようとしている。</p> <p>それぞれの主体や事業者が行う環境対策を今までの学習で身に付けた廃棄物の処理方法や3Rの知識を理解しようとしている。</p>

第7章 都市・生活と環境

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 活用できる (できる)	<p>いろいろなグラフから情報を読み取ることができる。</p> <p>良好な健康を保つために空気や熱、光、音に求められる対策と、建物のエネルギー消費とその削減および環境性能に関する知識を身に付けている。</p>	<p>エネルギー消費とヒートアイランド現象の関係、水処理の必要性、交通システムの省エネルギーと環境汚染対策それぞれについて適切に説明することができる。</p> <p>空気や熱、光、音が及ぼす健康への影響を考察し、住まいの省エネルギーや環境性能と地球環境に配慮した住まい方を研究することができる。</p>	<p>生活や交通のエネルギーと水のシステムを理解するために、今までに学習した地球温暖化やエネルギーに関連する知識を再活用しようとしている。</p> <p>地球環境に配慮した住まい方に関心をもち、住まいの環境性能向上によるメリットを自己の生活環境と対比させながら学習しようとしている。</p>
習得する (わかる)	<p>ヒートアイランド現象や水の利用、交通システムにおける環境問題を理解している。</p> <p>都市化や生活の近代化、地域の高齢化にともなう災害リスクと、災害への備え</p>	<p>災害リスクが高まる状況を想像し、災害による被害の軽減や都市機能の維持、復旧・復興など、防災・減災の取り組みについて考察し、発表できる。</p> <p>環境保全のために必要な社会や</p>	<p>過去の自然災害とその被害状況を現実的なものとしてとらえ、自治体のハザードマップなどを参考に防災と減災についての学習意欲を高めようとしている。</p>

	<p>や防災・減災に向けた基本的な取り組みについて理解している。</p> <p>人々の暮らしが環境に与えている影響を認識し、環境保全を進めていくためにはまちづくりや地域づくりが重要であることを理解している。</p>	<p>人々の取り組みについて考察し、環境保全を進めていくために効果的な手法を検討できる。</p>	<p>人々の日常生活が環境に与える影響について調べ、地域の環境保全を進めるため、いろいろな意見を取り入れながら学習を進めようとしている。</p>
--	---	---	--